

## 用語集

### ■ 契約者支払単価 (Average Monthly Contractor's Payment)

契約者1人当たりの平均月間視聴料等の支払額。

### ■ バックホール(backhaul)

通信事業者の回線網等で末端のアクセス回線と中心部の基幹通信網(バックボーン回線)をつなぐ中継回線・ネットワークのこと。

### ■ BCP(Business Continuity Plan ; 事業継続計画)

企業等が自然災害、大火災、テロ攻撃等の緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段等を取り決めておく計画のこと。

### ■ BS(Broadcasting Satellite)

BS放送を提供する放送衛星で、放送サービス用に設計・製造された静止軌道上の人工衛星。

### ■ Beyond 5G/6G

5Gの次の世代、2030年代の無線・有線の目指すべきネットワークのありかたのこと。日本では、総務省が中心となり5Gを超える世代「Beyond 5G」として2020年から検討を開始している。

### ■ CS(Communications Satellite)

通信衛星。主に通信サービス用に設計・製造された静止軌道上の人工衛星。日本では、1992年からBS同様に放送サービス用にも使用されており、当社グループは現在、JCSAT-3A(東経128度)、JCSAT-4B(東経124度)、JCSAT-110A・JCSAT-110R(東経110度)の通信衛星を放送サービス用に使用している。

### ■ CTV(Connected TV)

ストリーミングスティック、ゲーム機等を介してインターネット回線に接続されたテレビ端末のこと。

### ■ DTH(Direct To Home)

衛星を通じて家庭へ直接番組を配信すること。

### ■ FSS(Fixed Satellite Services)

通信サービスを主に固定された地球局に提供する衛星通信業務の呼称。いっぽう、主に移動地球局に通信サービスを提供する衛星通信業務はMSS(Mobile Satellite Services)と呼ばれる。

### ■ フレキシブル・ペイロード(Flexible Payload)

ビーム形状変更による照射エリアの柔軟な設定、電力制御や再配分、デジタルチャネライザによる帯域可変等の軌道上でのリコンフィギュレーションを可能とする次世代のデジタル衛星通信技術のこと。当社グループは、アジア初となるフレキシブル・ペイロード技術を搭載した衛星を2027年上期運用開始予定。

### ■ FTTH(Fiber To The Home)

光ファイバーを伝送路として家庭に直接映像やインターネット回線を提供するアクセス系光通信サービスのこと。

### ■ 静止軌道(GEO;Geostationary Earth Orbit) / 低軌道(LEO ; Low Earth Orbit)

静止軌道は、赤道上空約36,000kmの人工衛星の軌道位置。地球の自転に同期しているため、静止軌道上の人工衛星は見かけ上地上から静止して見える。低軌道は、地球の表面から高度1,000km以下の低い軌道位置。静止衛星と比べて衛星が常に地球上空を移動しているため、連続的な通信サービスを提供するためには、複数の衛星で構成される衛星コンステレーションを構築する必要がある。

### ■ HAPS(High Altitude Platform Station; 高高度疑似衛星)

地上から20kmの成層圏から超低遅延・大容量の通信プラットフォームの展開が可能となる無人機体(無人通信基地局)。成層圏は年間を通して風が穏やかで安定した飛行制御が可能で、運用開始後も機器の交換・改修やサービスエリアの移動が可能となる次世代の通信プラットフォームとして研究開発が進んでいる。

### ■ HTS(High Throughput Satellite)

高速大容量のサービスを可能とする通信衛星。隣り合うスポットビームで異なる周波数を用いると同時に隣接していないスポットビームでは同じ周波数のリソースを再利用することにより、従来の通信衛星に比べて約10倍の通信容量を実現可能。

### ■ LIANA(Land-deformation and Infrastructure ANalysis)

SAR画像解析によって地上の斜面やインフラの変動をモニタリングするサービス。

## 用語集

## ■ NTN (Non Terrestrial Network)

衛星やHAPS等の非地上系媒体を利用して、通信エリアが地上に限定されず、空・海・宇宙等のあらゆる場所に通信エリアが拡張されたネットワークのこと。

## ■ OTT (Over The Top)

インターネットを介して動画等大容量コンテンツを配信するサービスの総称。従来型の通信基盤・インフラを飛び越えて映像サービスを直接視聴者に提供する事業者をOTT事業者と呼ぶ。

## ■ 量子暗号技術 (Quantum Cryptography Technology)

光の最小単位である光の粒(光子)のような極小の物質の動きやふるまいを示す量子力学を応用し、暗号化してやりとりする情報とは別に、暗号を解読するための鍵となる暗号鍵を分割して光子一つひとつに載せて送る技術。データ通信の安全を担保する次世代の暗号技術。

## ■ 右旋偏波/左旋偏波 (Right Handed Circular Polarization/Left Handed Circular Polarization)

偏波とは電波の進み方のこと。時計回りに進む電波を右旋、反時計回りに進む電波を左旋という。偏波を右旋と左旋に分けることで同一周波数を2倍に増やして利用することができる。

## ■ SAC (Subscriber Acquisition Cost)

新規加入者の獲得にかかる諸費用。広告宣伝費、加入促進費、カスタマーセンターの運営費用等。

## ■ SAR (Synthetic Aperture Radar: 合成開口レーダー)

地表にマイクロ波を照射し、反射して返ってきた信号を分析することで地表面の情報を得るレーダーで、雲や噴煙を透過するため昼夜を問わず観測することができる。

## ■ 衛星コンステレーション (Satellite constellation)

中・低軌道に打ち上げた多数の小型非静止衛星を連携させて一体的に運用すること。世界全域を対象として多様なサービスの提供が可能。世界的にさまざまな衛星コンステレーションシステムが計画されている。

## ■ 宇宙統合コンピューティング・ネットワーク

## (Space-integrated Computing Network)

持続可能な社会実現のためにスカパーJSAT(株)と日本電信電話(株)が取り組む、地上災害の影響を受けず宇宙で独立して脱炭素かつ自立可能な宇宙通信ネットワーク基盤。宇宙センシング、宇宙データセンター、宇宙RAN(Radio Access Network)の3つの機能をベースに超低消費電力、超高速通信、高セキュアなネットワークの構築を目指す。

## ■ スペースインテリジェンス (Space Intelligence)

当社の造語。空間(スペース)をつなぎ、空間から獲得・収集した多様なデータを使って人々の「観たい、識りたい(インテリジェンス)をかなえる」データの利用・解析・提供を行う新たな取り組み。

## ■ 宇宙ごみ (Space Debris)

耐用年数を過ぎ機能を停止、または故障により制御不能となった人工衛星から、打ち上げに使われたロケットの部品、破片、デブリ同士の衝突で発生する微細デブリまで、地球の衛星軌道上を周回している不用な人工物体。宇宙開発・利用が本格化する中で、その数は年々増え続け、対策が必要となっている。当社グループは宇宙空間に漂う宇宙ごみを遠隔からレーザーで照射して地球の大気圏に向けて軌道修正を図るというアプローチを開発中。

## ■ Spatio-i

光学画像・SAR画像などの衛星から取得したデータと、位置情報などの地理空間情報と各分野にカスタマイズしたAI分析を組み合わせた情報サービス。

## ■ トランスポンダ (Transponder)

送信機 (Transmitter) と応答機 (Responder) からの合成語。衛星通信においては、地上から受信した電波(電気信号)の増幅・変換・送信等を担う通信機器の総称で、中継器あるいは電波中継器とも呼ばれる。

## ■ Universal NTN

広域・大容量・低遅延・安全高信頼・低消費電力といったあらゆるニーズに対応した非地上系ネットワークサービスのこと。

## ■ アップリンク/ダウンリンク (Uplink/Downlink)

アップリンクは地球局から通信衛星へ、ダウンリンクは通信衛星から地球局への情報伝送のこと。